

2006 のじぎく兵庫国体 豊岡市開催競技の紹介



卓球競技(全種別)

会期：平成18年10月6日(金)～10日(火)

会場：豊岡市総合体育館



▲ テーブルを挟み、相手コートに向けてボールを打ち合う卓球競技。小さなボールを高速で打つため、瞬発力と正確な判断が要求される

卓球競技豆知識

のじぎく兵庫国体の正式競技として豊岡で開催される卓球競技は、ラケット競技では最大の競技人口を持ち、世界120カ国以上で親しまれています。

縦27.4センチ、横15.2.5センチの小さなテーブルを挟んで、ネットを超えて飛んでくる、直径4センチ、ラージボール4.4センチのセルロイド製ボールを打ち合う競技です。

しかし、コートが狭いうえ、軽くて小さなボールを高速で打つので、敏捷性・集中力・正確さ・柔軟性が要求されます。

また、技術が高まるにつれ、身体的・精神的な持久力、相手の作戦や心理を読む知的な面が必要になってきます。

卓球のルール

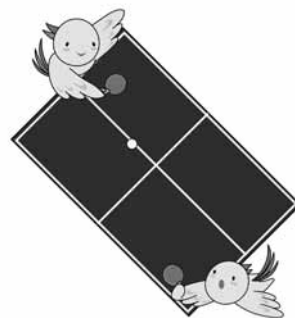
現在の卓球の起源は、13世紀ごろにフランスの貴族が楽しみのために始めたジユド・ボーム(手の平のゲーム)といわれるもので、毛や布を詰

めて球状に布を重ねたものをボールにして、素手や手袋をはめた手の平で打っていました。

1898年には、ボールとラケットをケースに入れて、「ピンポン・セット」と名付けて販売され、20世紀初めには、このピンポンがヨーロッパの上流階級で大流行となりました。

1902年(明治35年)ピンポンが日本に上陸

日本にピンポンが伝わったのは、1902年(明治35年)です。坪井玄道(当時・東京高等師範学校)がロンドン留学からの帰国時にピンポンセット3組とルールブックを持ち帰ったのが始まりといわれています。



リハーサル大会にお越しください

平成17年度全日本卓球選手権大会(団体の部)

開催日：平成17年 9月30日(金)～10月2日(日)

会場：豊岡市総合体育館

9月30日(金) 開会式、第1ステージ 14:00～

10月1日(土) 第1ステージ 10:00～

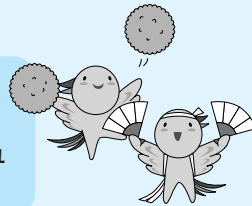
10月2日(日) 第2ステージ(準決勝・決勝) 10:00～
閉会式(決勝終了後)



▲サーブを打つ選手、受ける選手ともに駆け引きが行われている、緊張の一瞬

国内の卓球競技において、最も権威のある大会「平成17年度全日本卓球選手権大会(団体の部)」が、のじぎく兵庫国体卓球競技リハーサル大会として、豊岡市で開催されます。この大会は、全国から実業団・大学・高校・ジュニアナショナルチーム、さらに、兵庫県代表チームを加えた男女各12チームが参加し、日本一のチームを決める大会です。最高の技を間近で観ることができ、またとない機会ですので、ぜひご観戦ください。また、豊岡市出身の、渡邊直希さん、西岡百子さんも出場しますので、皆さんの応援をお願いします。

観戦は無料です。
当日は、上履きをご持参ください。
競技中のカメラ撮影は、フラッシュ禁止です。



世界のコウノトリ目展

のじぎく兵庫国体の公開競技として、スポーツ芸術が開催されます。

スポーツ芸術は、舞台芸術・



展示会など全国から訪れる方に向けて、開催地の文化や住民の活動を紹介する催しです。

豊岡市では、コウノトリをテーマに開催します。

会期：平成18年9月30日(土)～10月10日(火)

会場：コウノトリ文化館

観覧料：無料



▲清掃活動を行う市民の皆さん

クリーン作戦が行われました

卓球競技リハーサル大会参加者や大会関係者を温かく迎えるようと、9月4日、豊岡市総合体育館周辺でクリーン作戦が行われました。

当日は、約570人の住民が清掃活動に取り組み、駐車場となる円山川河川敷や公園など約10カ所で、草刈りやごみ拾いを行いました。

空手道競技リハーサル大会 地元選手稲垣さんが大活躍！

8月21日、出石町の出石中学校体育館で、のじぎく兵庫国体空手道競技リハーサル大会「第39回近畿空手道選手権大会」が開催されました。

地元出身の稲垣宏実さん(出石町川原)が出場し、成年女子形個人戦で第3位に入賞しました。

来年の本大会の活躍が期待されます。

●卓球競技・世界のコウノトリ目展についての問合せは、のじぎく兵庫国体豊岡市実行委員会(団体推進課)
☎26・1330